

2019年11月24日

2019年11月定例自然観察会実施報告書

六甲自然案内人の会 2班 池田 均

実施日時 2019年11月10日(日) 晴れ
参加者 ビジター31名 会員19名 (内2班13名)
テーマ 秋を感じながら古道(魚屋道)を登る
コース 10:00 JR 甲南山手駅北広場～稲荷神社～関電鉄塔～風吹岩への分岐～金鳥山展望広場～保久良神社～夢広場～15:10 天上川公園解散
説明案内人 1班 西、2班 倉重、3班 近藤、4班 池田清、5班 苅谷

はじめに

「会員でなくても参加できますか」「観察コースは厳しい道でしょうか」。チラシを見たビジターさんから問合せがありました。嬉しい反響に感謝し、期待をもって当日を迎えました。

年によっては、秋を感じるといっても紅葉にはまだ早過ぎますし、多くの草花は散っています。やや色彩の風情に欠ける山々ですが、豊富な樹木を中心に観察を行いました。

最近の台風被害により、魚屋道の谷筋は通れませんが、尾根道を登りました。

1. コースに沿って

(1) 古くて新しい「魚屋道」を解説

「魚屋道」の性格について3つの視点から簡単に説明。①古くは湯山間道(抜け道)として利用された道②明治になり鉄道が発達。湯治客の利用形態が変わり、専ら魚屋が利用するようになった。昭和初期の登山ガイドブックには「さかなやみち」と記されている③戦争や自然災害等により埋もれたが、団塊世代の進出など社会的背景や登山ブーム到来により、「ととやみち」と命名されて蘇ったと思われます。

稲荷神社に残されている「湯山間道」時代の手水鉢を見学しました。「魚屋三四郎」などの寄贈者屋号が刻まれています。



(2) 稲荷神社を経て鉄塔付近まで

市街地はここまで。「魚屋道」の標柱すぐ横に大きなセンダンの木があります。根元に黄色の実が落ちています。見上げると枝にはまだ実が残っていました。



「黄色の実をいっぱいつけるので千珠(せんだま)。それが訛ってセンダン」。ここからしばらくは常緑の低木と落葉の高木が混在する森です。昼でも暗いためかシダの種類も多い。ここで目立つのがオオバノイノモトソウで、栄養葉と孢子葉を示しながら解説。フモトシダは「耳たぶが特徴です」と覚えやすく説明。

樹木ではエノキ、ムクノキ、アオキ、コナラ、アベマキ、クヌ

ギを観察。尾根にでたあたりから赤い実をつけたガマズミ（前の写真）が見られました。味をした感想は「スッパイ」でした。急坂を頑張って登り終えると、カラスザンショウの「群落」に出会いました。鉄塔を越えた所にある植樹の林では、ネムノキの変った葉脈を熱心に観ていた皆さんが印象的でした。

(3) 金鳥山広場・保久良神社まで

この日の目玉の一つはノササゲの実でした。まだ残っているかなと不安げに探しましたところありました（右写真）。紫の実には神秘的輝きをもっていました。



また、下見の度に消滅していたクチベニタケもその一つです。この前まであった場所にはもうありません。ガッカリしていたらビジターさんが別の場所で見つけました。複眼の成果でした。このキノコにはカサがありません。丸い頭の頂上に小さな胞子アナがあり、その部分が赤いクチベニに見えることから名がついています。（左写真）



緩やかな尾根を下るとシロダモの木がありました。

赤い実のそばに白い花が咲いていました。花は少ししかないので、まだ咲き始めでしょうか。

「葉の裏が白いのでシロダモです。葉はクスノキと同じ三行脈があります。この樹は雄株と雌株があり、花が咲いているのは雌株です。面白いのは、今見ている赤い実は去年咲いた花の実です。実になるのに1年もかかるのです」。遠目で観ていた皆さん、説明をきいてグウッと近づいていました。



最後はムクロジの実を使った石鹸づくり実験です。神社を下った広場にムクロジが植えられています。水を入れた瓶に手持ちの実を入れて強く振ります。すると白い泡がたちました。参加者も歓声。かつては石鹸の代用として使われていたそうです。

← できた石鹸を紹介

観察風景

2. 皆さんの感想

- ・ 青木さんと青木君の話が面白かった。覚えやすい。
- ・ ほとんど初めて聞く話ばかりだった。
- ・ コースはきつかったが何とかついていけた。

3. こぼれ話

センダンの実と水を入れたペットボトルを振る。ところが泡立しない。この水は駅トイレのものを使用。自宅から持ってきた清水に変えて再度実行。なんと泡立ったのです。なぜかは不明。反省会で出された話です。皆さんも一度試しては。

